



学生支援に関する基礎研修講座
講義5 (2025.8.29)

インターンシップの課題 困難と対応策

児美川 孝一郎 (法政大学)
KOMIKAWA, Koichiro



自己紹介

- 法政大学 キャリアデザイン学部 教授
- 専門は、教育学（青年期教育、キャリア教育）



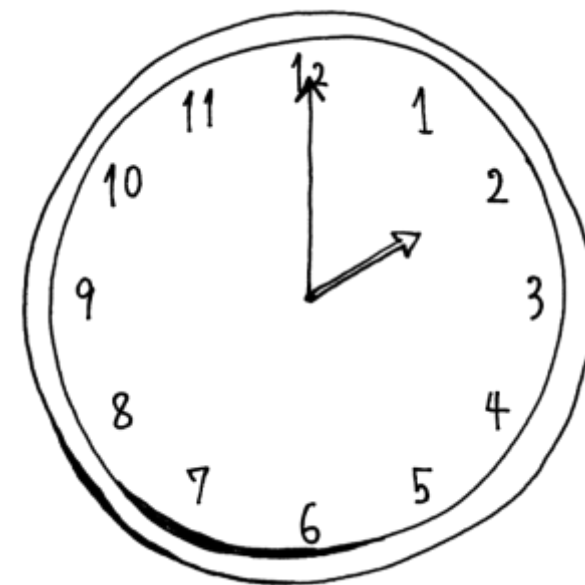
- キャリアデザイン学部長
- FD推進センター長
- 大学評価室長
- 学習環境センター長
- 教育開発支援機構長

等を歴任する中で考えてきたことをお話しします



タイム・スケジュール

15:20 開会 (5)
グループワーク I (20)
講義 I (30)
16:15 休憩 (10)
16:25 グループワーク II (30)
16:55 講義 II、振りかえり (25)
17:20 閉会





《グループワークⅠと発表》

グループワーク I

インターンシップへの貴学の
取り組みについて、日頃か
ら感じている問題点や課
題は？



グループ内での討論：10分
発表とコメント：10分



《講義 I 》



大学がインターンシップに取り組むとは？

A 単位化された科目としてインターンシップ（事前・事後の学習を含む）を実施

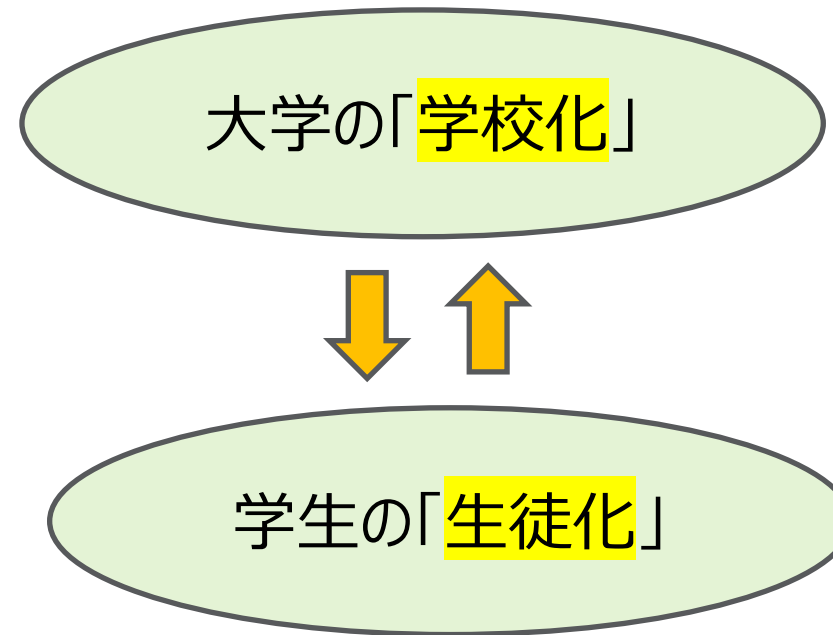
A' Aに向けた履修指導、ガイダンスなど

B 学生が自主的に参加するインターンシップ

B' Bを促すガイダンス、セミナー、個別相談など

お世話モード

キャリア支援・教育，就職支援に取り組めば取り組むほど，
大学教育は？・・・《お世話モード》



学生たちは，自分からは動くというよりは，支援してくれる
のをじっと待つ・・・《お任せモード》

◆大学教育について、あなたは次にあげるA、Bのどちらの考え方に近いですか。

①単位取得

【A】あまり興味があなくても、単位を楽にとれる授業がよい

【B】単位をとるのが難しくても、自分の興味のある授業がよい



②授業難度

(%)

【A】応用・発展的内容は少ないが、基礎・基本が中心の授業がよい

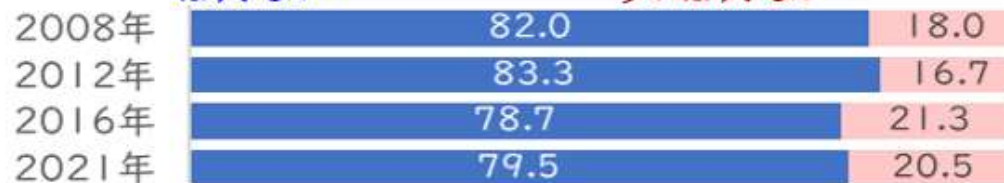
【B】基礎・基本は少ないが、応用・発展的内容が中心の授業がよい



③授業形式

【A】教員が知識・技術を教える講義形式の授業が多いほうがよい

【B】学生が自分で調べて発表する演習形式の授業が多いほうがよい



④身につけたい知識

【A】大学では幅広い分野の知識や技能を身につけたほうがよい

【B】大学では特定の専門分野の知識や技能を身につけたほうがよい



⑤単位の系統

【A】あまり自由に選択履修できなくても、系統立って学べるほうがよい

【B】あまり系統立って学べなくても、自由に選択履修できるほうがよい



⑥学習方法

【A】大学での学習の方法は、大学の授業で指導をうけるのがよい

【B】大学での学習の方法は、学生が自分で工夫するのがよい



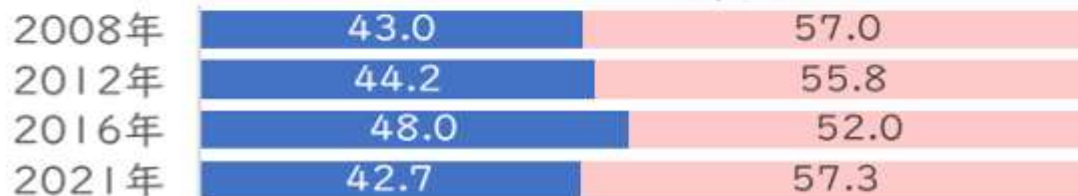
ベネッセ教育研究開発センター『第4回大学生の学習・生活実態調査』2021

◆大学教育について、あなたは次にあげるA、Bのどちらの考え方に近いですか。

⑦将来決定

【A】学生は将来やりたいことを決めて、授業をうけるほうがよい

【B】学生は授業を通じて、将来やりたいことをみつけるほうがよい



⑨就職活動

【A】就職については、大学の指導・支援にもとづいて活動する方がよい

【B】就職については、学生の自主性にもとづいて活動する方がよい

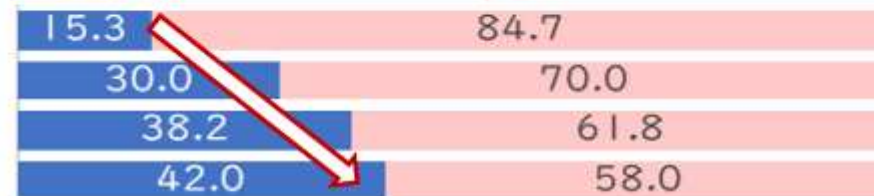


⑧学生生活

(%)

【A】学生生活については、大学の教員が指導・支援するほうがよい

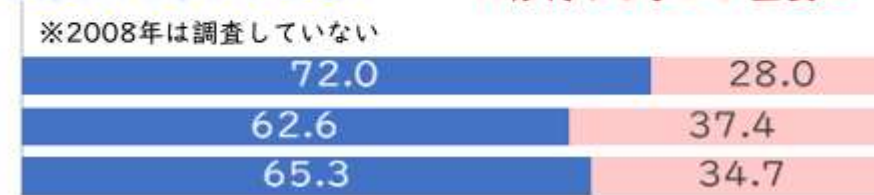
【B】学生生活については、学生の自主性に任せるほうがよい



⑩重要な学び

【A】大学では、答えのない問題について、自分なりの解を探究する学びが重要だ

【B】大学では、既にある学問の知識について、体系的に修得する学びが重要だ



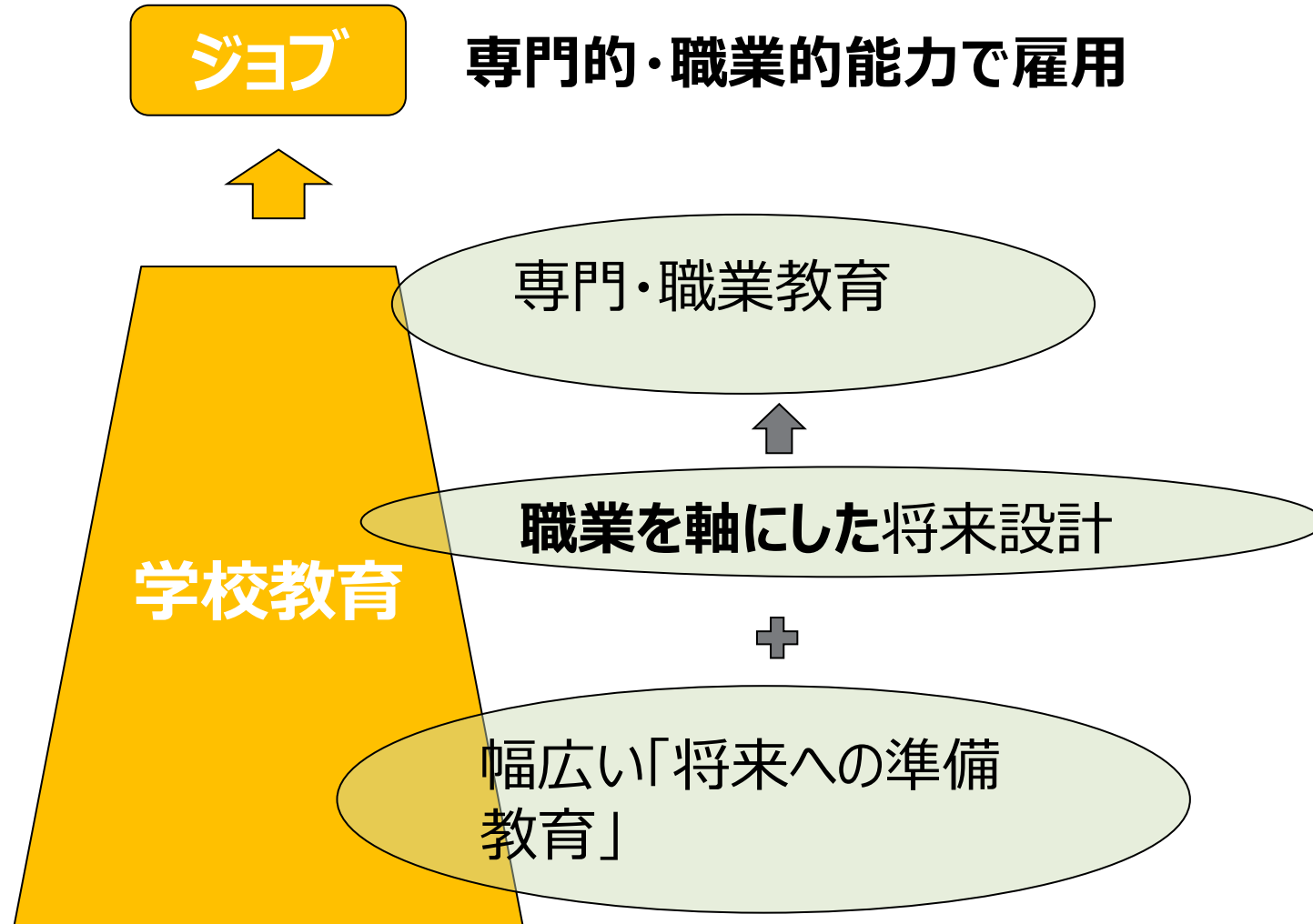
インターンシップとは？

「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」（文部科学省、厚生労働省及び経済産業省合意）における定義

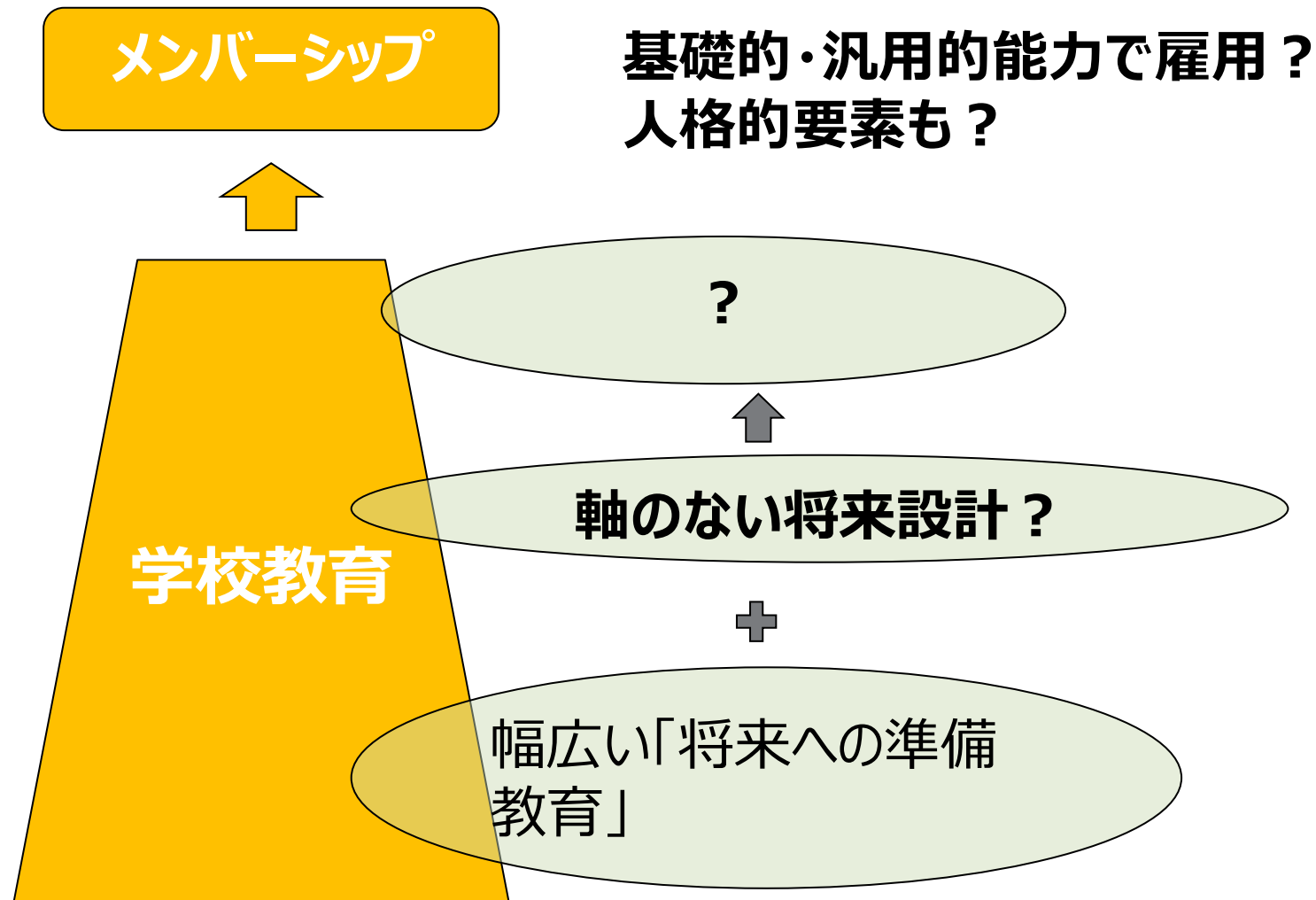
「学生が在学中に**自らの専攻**，**将来のキャリア**に関連した就業体験を行うこと」（1997）

「学生がその仕事に就く能力が自らに備わっているかどうか（**自らがその仕事で通用するかどうか**）を見極めることを目的に、**自らの専攻を含む関心分野**や**将来のキャリア**に関連した就業体験（企業の実務を経験すること）を行う活動（但し、学生の学修段階に応じて具体的内容は異なる）」（2022）

「ジョブ型雇用」の欧米におけるキャリア支援・教育



「メンバーシップ型雇用」の日本におけるキャリア支援・教育





《グループワークⅡと発表》

グループワークⅡ

大学におけるインターンシップ
への取り組みは、こう変えるべ
き。こう変えていきたい！
(提案を作成してください)



グループ内での討論：20分
発表とコメント：10分

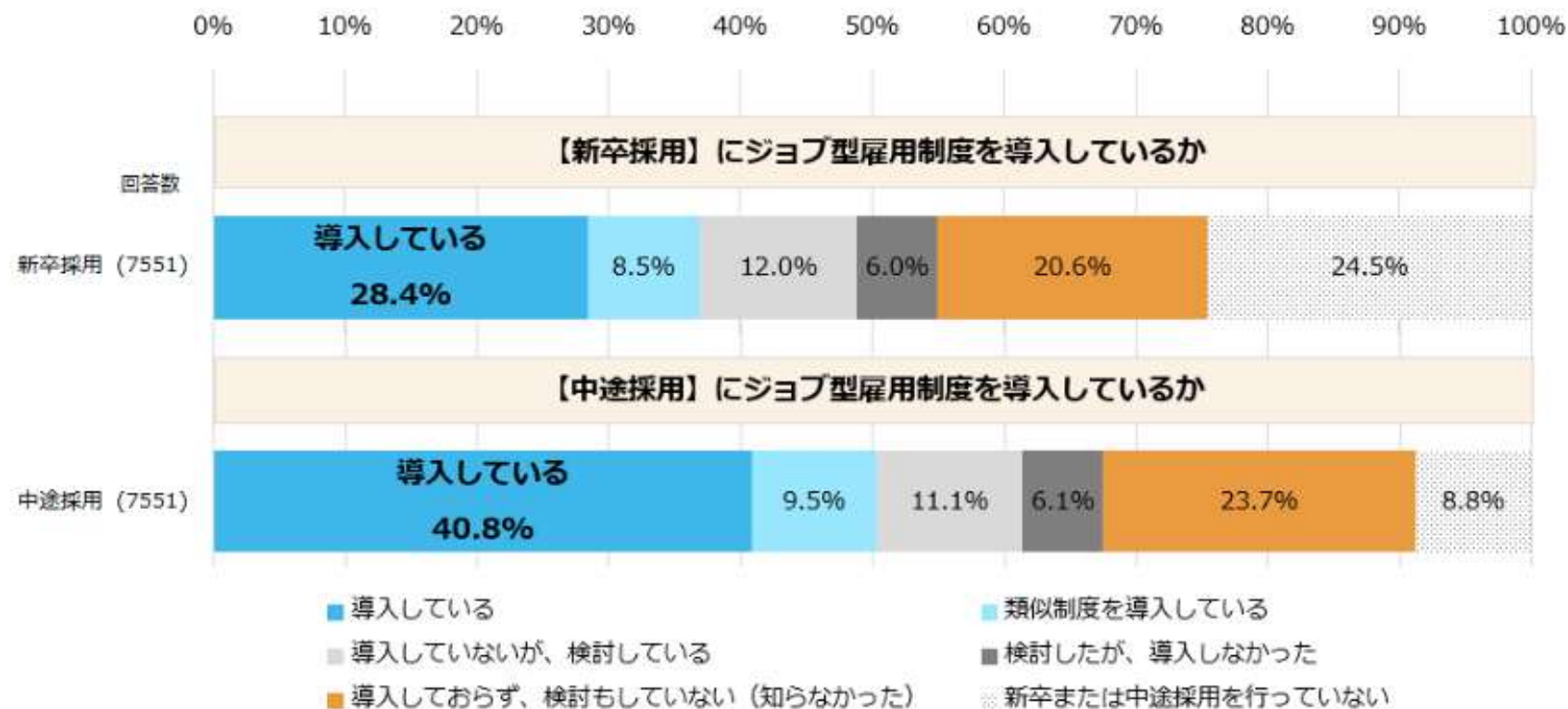
ワークに取り組むときの視点

- ① 自分の大学を想定して、「そんなの無理」「条件や環境が整っていない」などと言わない!
- ② 思いきり「仮想的有能感」を持てい!
- ③ 発表のゴール
 - 1 どんな方向をめざすか?
 - 2 大学としては何に取り組むべきか?
 - 3 大学職員としては、何に、どう取り組むか?



《講義Ⅱ》

採用の将来的なトレンド？



マイナビ調査 (2021.8)

「日本経済新聞」2024.4.8

大学教育の目的

学校教育法

第83条 大学は、**学術の中心**として、**広く知識**を授けるとともに、**深く専門の学芸**を教授研究し、知的、道徳的及び**応用的能力**を展開させることを目的とする。

② 大学は、その目的を実現するための教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、**社会の発展に寄与**するものとする。

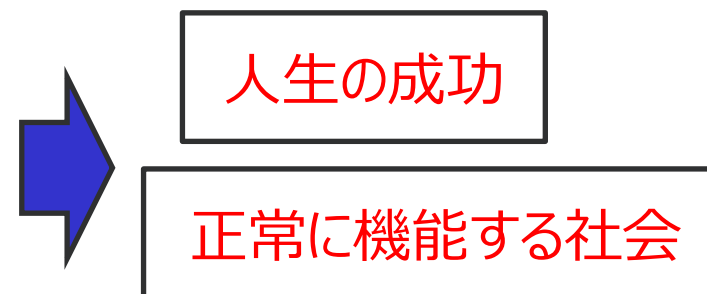
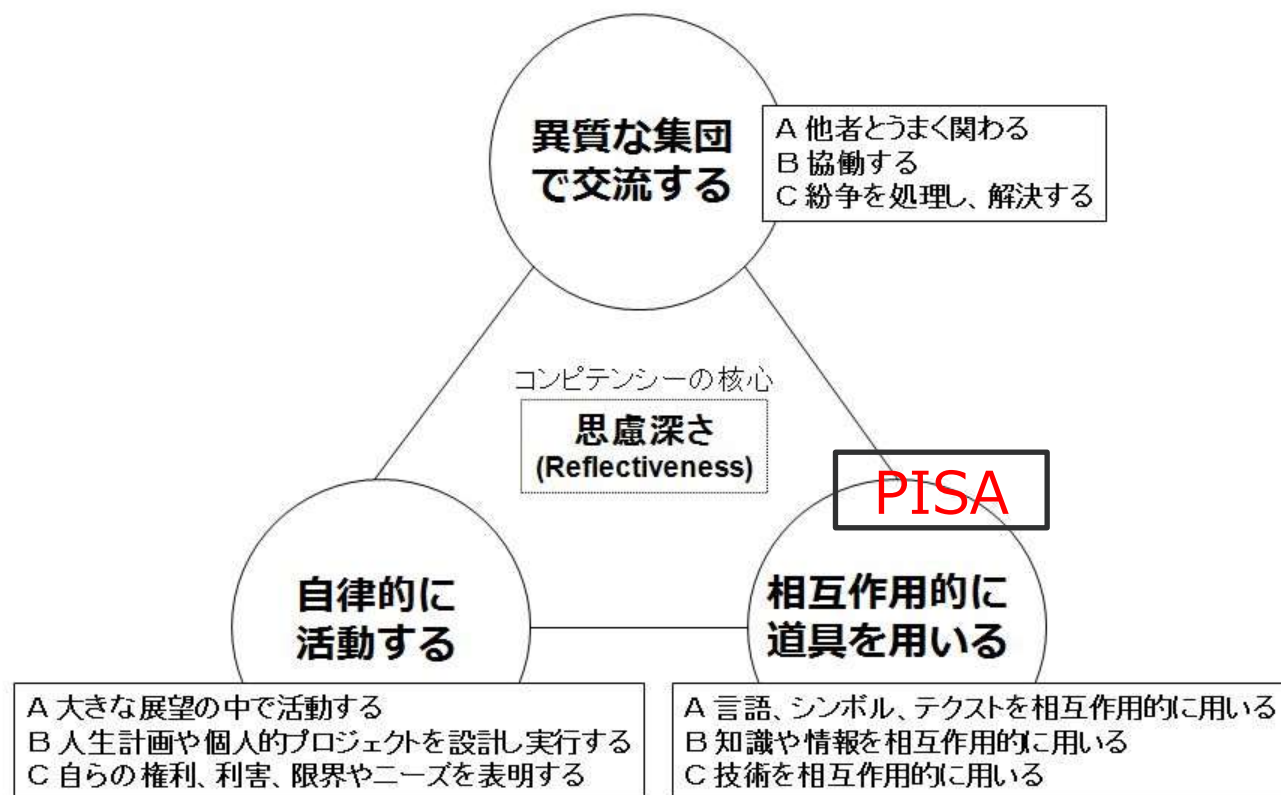
- 経済界や政治の世界が、折に触れて発信する「大学教育は役に立っていない」という言説は、何を根拠にしているのか？

大学教育の本来の役割

- 市民を育てる(シティズンシップ)+職業人を育てる(エンプロイアビリティ)
- そうであれば、インターンシップだけではなく ➡ サービスラーニング、(社会課題に迫る)PBLも

OECDの DeSeCo (Definition and Selection of Competencies) プロジェクト

図 3つのキー・コンピテンシー



社会正義のキャリア支援

「社会正義」のキャリア支援という問題提起

- 欧州におけるキャリアガイダンス、キャリアカウンセリングで注目の概念
- 従来は、労働市場／教育訓練のマッチングに焦点が当てられてきた。現在では、そこに「何のために？」（＝「社会正義」の観点）が入ってきた

労働市場	• labour market goals
教育訓練	• learning goals
社会正義	• social equity / social justice



- 教育やキャリア支援の目的は、**個人の幸福追求 + 社会正義の実現**
 →前者の最大化だけを目的とするような
 キャリア支援は許されない
 →ましてや、教育機関が行うキャリア支援であれば！



- 「大学におけるキャリア支援・教育は、これまでのままでいいのか？」

	社会に焦点	個人に焦点
変化	ラジカル (社会的変化)	プログレッシブ (個人的変化)
現状維持	コンサバティブ (社会的統制)	リベラル (非指示的)



Watts(1996).Socio-political ideologies in guidance.
 In Watts, A. G. et al. (Eds.), Rethinking Careers
 Education and Guidance: Routledge. pp.352-355.

ラーニング・ブリッジ

- インターンシップ（他の体験型学習）の意義はどこにあるか？



- その体験で得られること
- その体験で得られたことが、他の授業内での学習や授業外での活動での学習にブリッジしていく



そのために必要なことは？

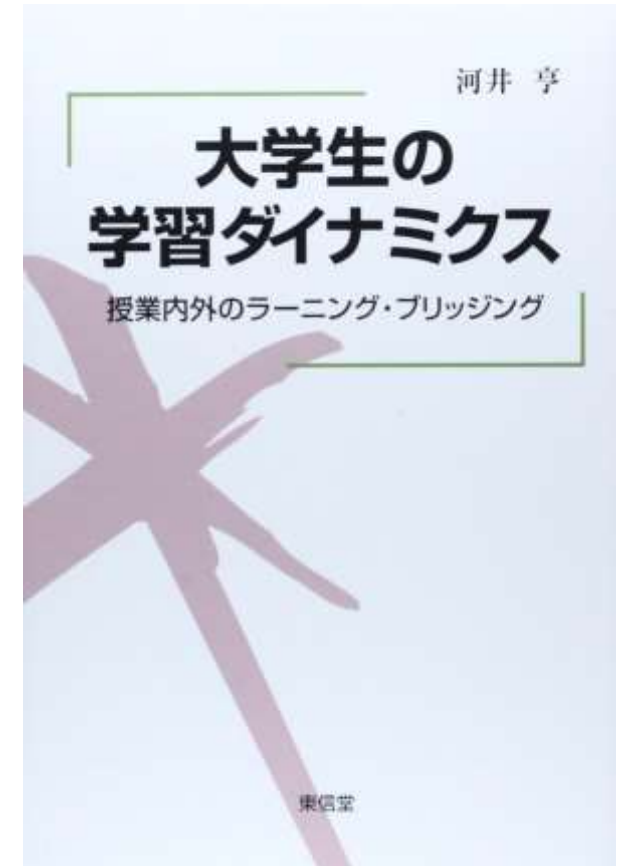
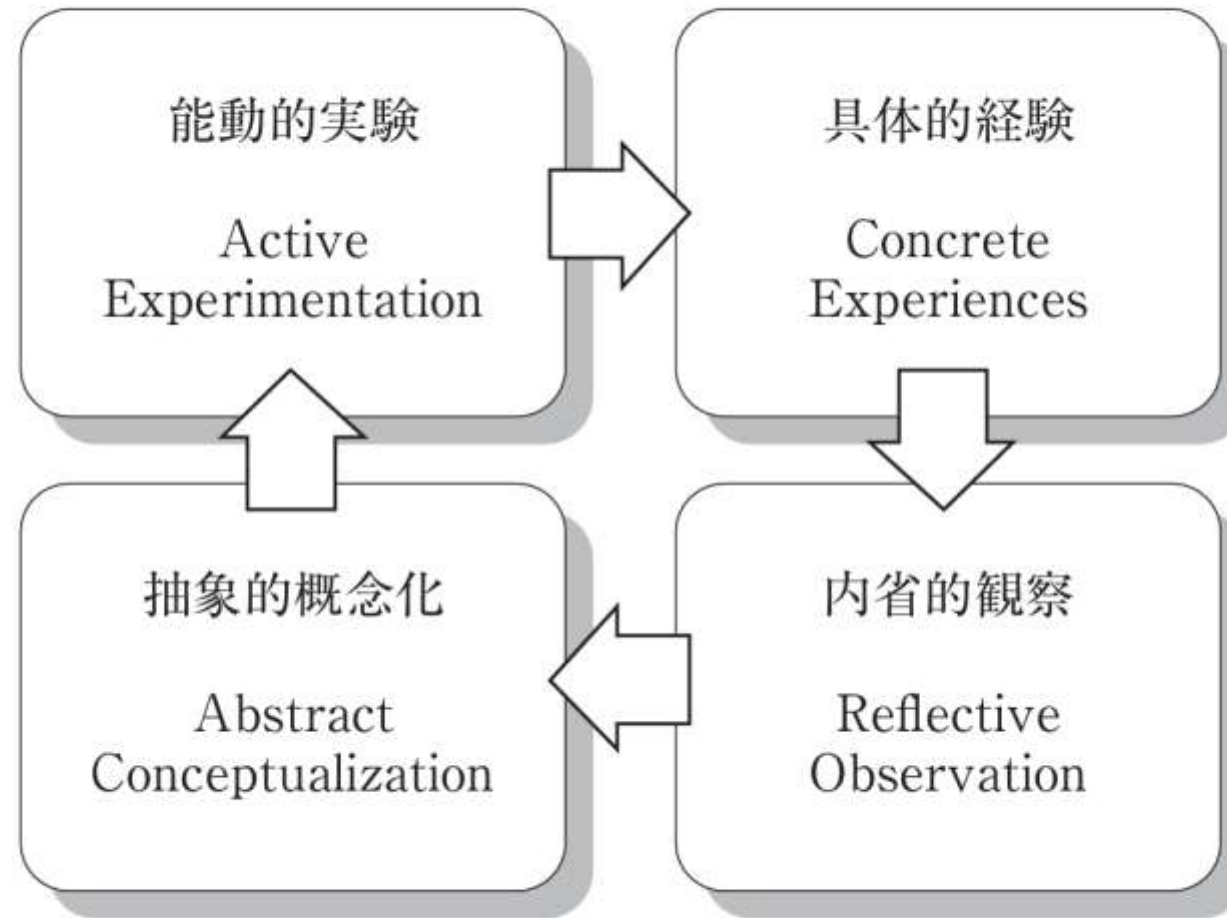


図 1 経験学習モデル



出所：Kolb (1984)

お疲れさまでした

komikawa@hosei.ac.jp